

(2) 被害の防止

1) 自分のほだ場に限らず、近隣地域においてハラアカコブカミキリの発生を確認した場合は、原木への飛来を避けるために予防措置をとる必要があります。

ア 原木全体をネットで覆い、原木への産卵を防ぐ(写真6)。ビニール等で密閉すると害菌が発生しやすくなるので、網目が2mm程度の通気性のあるものを選ぶ。



写真6 原木をネットで覆った状況

イ ネット被覆は3月初旬に行い、成虫の産卵時期が終わる7月下旬まで継続する。

ウ 原木の伏せ込みは風通しの良い場所を選ぶ。

エ 植菌は3月までに済ませ、ほだ木を保温して菌の伸長を促進する。

2) 成虫の駆除対策としては、薬剤施用が有効です。平成28年10月現在、シイタケ原木におけるハラアカコブカミキリ防除に使用できる農薬は表1のとおりです。

表1 ハラアカコブカミキリに適用する薬剤

一般名	商品名	使用方法	使用部位	希釈倍率	使用量	使用回数
MEP乳剤	スミパイン乳剤	散布	ほだ木	350	樹皮表面積	2回以内
			笠木	40	1m ² 当たり 300~600ml	
ポーベリア・ バシアーナ剤	バイオリサ・ カミキリ	設置	ほだ木	—	10本当り 薬剤1本	—

ア 産卵するため原木に集まる前の3月と、原木から脱出する前の7~8月に防除を行う。

イ ポーベリア剤は微生物農薬なので、施用時には原木全体をシートで覆う。

ウ 原木を処分する場合、薬剤施用後に破砕又は焼却までの時間が必要な時は、羽化した成虫が分散することを防止するため、ハラアカコブカミキリ発生の兆候が見られる原木を集積し、丈夫なシートで覆う。

このような対策は他の病害虫の予防としても有効です。日頃からほだ場の管理に注意して、ハラアカコブカミキリの発生を防止しましょう。ハラアカコブカミキリが千葉県に定着してしまうと、原木シイタケ栽培に影響が生じることが懸念されます。この資料に示したような原木の異状や成虫を発見した場合は、直ちに最寄りの林業事務所までご連絡をお願いします。

発行年月 平成29年3月、発行 千葉県・千葉県農林水産技術会議

執筆者 千葉県農林総合研究センター森林研究所 福原一成

「私的使用のための複製」や「引用」など著作権法上認められた場合を除き、本資料を無断で複製・転用することはできません。

農林水産技術会議
技術指導資料
平成29年3月

シイタケ原木の害虫 ハラアカコブカミキリの生態と防除



千葉県
千葉県農林水産技術会議

1 ハラアカコブカミキリの生態

ハラアカコブカミキリ（学名：*Moechotypa diphysis* (Pascoe)）は日本では対馬のみに生息していましたが、薪やシイタケ原木の移動に伴い 1970 年代に九州本土で確認されるようになりました。近年ではさらに西日本全域に生息域を拡大しつつあります。千葉県では平成 26 年に、西日本から運ばれたシイタケ原木で初めて発生が確認されました。現在、県では防除に関する指導及び技術の普及に取り組んでいるところです。

ハラアカコブカミキリはシイタケ原木の害虫として知られています。被害をもたらすのは幼虫で、原木の内樹皮を食害してシイタケ菌の伸長を阻害し、シイタケの収量を低下させます。広葉樹の枯死木を食べますが、特にコナラ、クヌギなどシイタケ原木となる樹種を好みます。成虫の背面には、鞘翅に黒い長毛が密生した一対のコブ状の部位があり（写真1）、腹面は赤褐色の細毛が斑点状となっているのが特徴です（写真2）。幼虫は内樹皮を浅く食害し、細長い木くず（フラス）を出します（写真3）。蛹室は材内ではなく、内樹皮をスプーン状に食害して形成します。1本の原木から多数の成虫が発生することもあり、このようなケースでは内樹皮の大半が食べられ、シイタケ菌が伸長する場所がなくなってしまいます（写真4）。

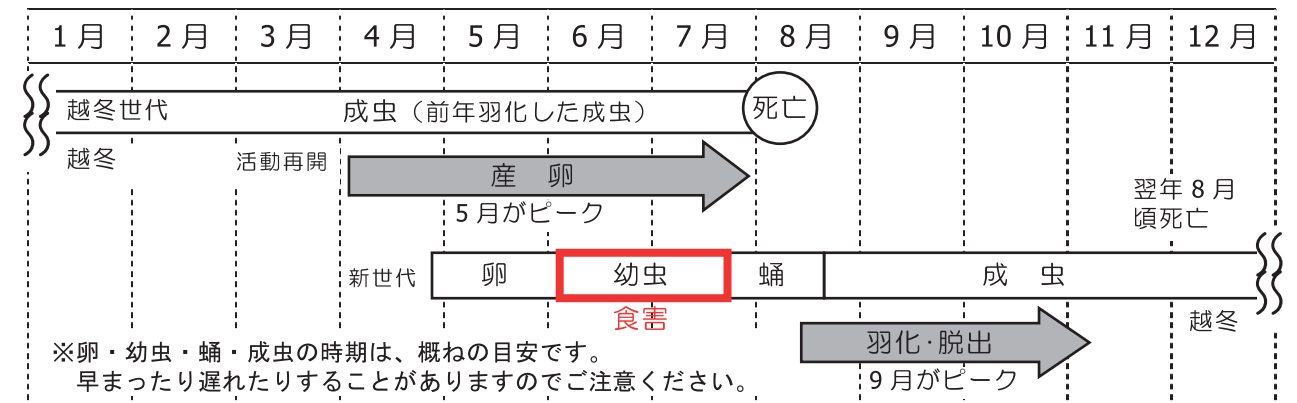


図1 ハラアカコブカミキリの生活環

ハラアカコブカミキリは1年1化の昆虫です。8～11月頃にかけて羽化した成虫は、落ち葉の下や木の隙間などで越冬した後、翌年3～7月頃に交尾して枯死木に産卵を行うと死んでしまいます（図1）。卵はすぐに孵化（ふか）し、夏の間幼虫は内樹皮を食べながら成長します。この時、卵がシイタケ原木に産みつけられていると、幼虫によって原木が食害を受けて大きな被害が生じます。なお、ハラアカコブカミキリはシイタケ菌を食べないので、菌が伸長している部分の食害はありません。

2 ハラアカコブカミキリの防除

(1) 新たな侵入の防止

1) 現在のところ、県内では非常に限られた地域にのみ生息していると考えられます。今後、ハラアカコブカミキリの新たな侵入を防止するためには、原木を搬入する際は下記の点に留意することが重要です。

- ア 原木の産地がハラアカコブカミキリの被害が生じている地域（九州、四国、中国地方）か確認する。
- イ 被害発生地からの原木移動は極力避けることが望ましいが、搬入する場合は成虫が越冬中で産卵前の12～2月頃までに伐採されたものを選び、搬入を完了させる。
- ウ 被害は小径木に多い傾向があるので、異状がないかよく確認する。

2) 6～7月に、原木に以下のような異状が発見された場合は直ちに除去するとともに、薬剤散布、焼却または破碎による駆除が必要です。

- ア 原木にカミキリの産卵痕（写真5、A）があったり、細長い木くず（写真5、B）が出ているもの。
- イ 幼虫や蛹を発見した場合、または原木から木をかじる音やカラカラという蛹の振動音が聞こえるもの。

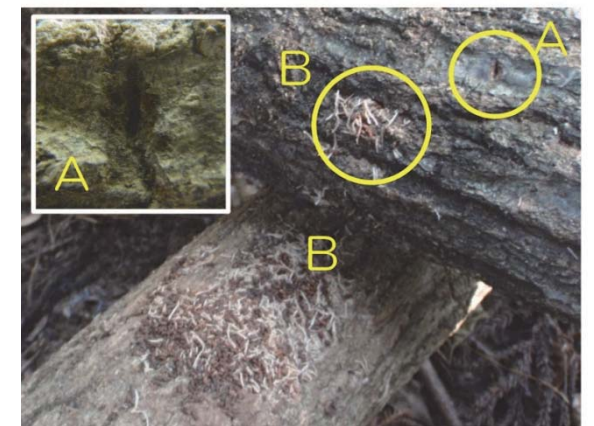


写真5 産卵痕（A）と幼虫が出した木くず（B）



写真1 ハラアカコブカミキリの背面
鞘翅に黒い1対のコブ状の部位がある（矢印）

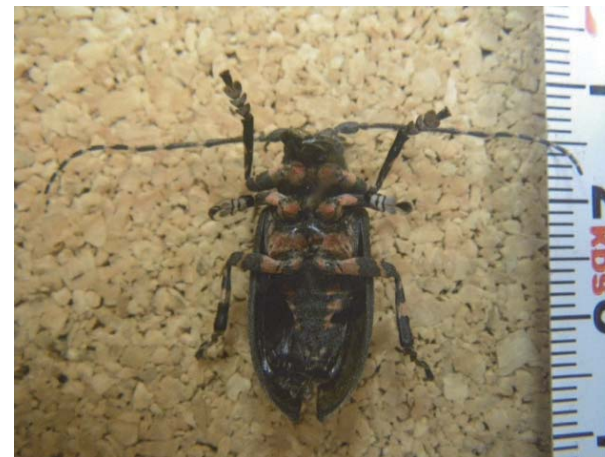


写真2 ハラアカコブカミキリの腹面



写真3 ハラアカコブカミキリの幼虫と
食べた木くず（矢印）



写真4 ハラアカコブカミキリの蛹室
（周囲を着色してある）